

日本化粧品工業振興財団

第27回表彰・贈呈式を開催

コーセーが社会貢献活動の一つとして支援を行っている公益財団法人コスメトロジー研究振興財団(小林保清理事長)は11月22日、第27回表彰・贈呈式をステーションコンファレンス東京にて開催した。



小林理事長



第27回表彰・贈呈式

最近が高齢化、国際化などの社会背景を見据えたテーマや先端的な技術の開発が目立っており、当助成事業がこうした化粧品産業の発展と人間の美しさ、豊かさに貢献できればこれほど嬉しいことはない」と挨拶した。

選考委員を代表して二木鋭雄氏(東京大学名誉教授)は、「多数の応募の中から、独創性や発展性、実用の可能性、コスメトロジーへの波及性といった視点で採点のうえ、コスメトロジーの将来発展に期待できるユニークな課題との視点から選考委員会での慎重な審議を経て候補者を選定した。研究の質的内容も高

同財団は、コスメトロジー(化粧品学)に関する調査研究に対する助成を行うことにより、美しく豊かな生活の実現に寄与することを目的に1990年にコーセーの創業者である小林孝三郎氏により設立されて以降、関連分野の第一人者の選考委員による審査を行い、優れた課題を表彰、研究助成を行っている。

第27回目となる今年度は、全国の主要大学、公的研究機関などからの104件の応募に対して厳正な審査を行い、特に優れた化粧品関連の研究課題32件の表彰を行った。また、国際交流助成2件、学術集会支援助成2件も連分野の第一人者の選考委員による審査を行い、表彰・贈呈式で小林理恵氏は、「当財団は、コーセーを創業した小林孝三郎氏を突破した。

近年の状況としては、応募数が毎年約1000件、助成件数が30件、助成金が2800万円とほぼ安定した活動で推移している。今年度は助成金を3000万円に増額し、さらに本日の理事会で来年度の助成金を4000万円に増額することが決定されたが、今後とも安定した活動を継続して度かつ多岐にわたる中、



プライミクス 代表取締役社長

古市 尚 氏



また、末端ではなく顧客企業に向けた発信も企業イメージを決定づける重要事項だと考えた場合、古市氏は歴代社長が知ったら驚きそうな大胆発想で販売先の信頼度を高めた。

2013年4月、機械の無償修理期間を従来比で3倍となる3年間にのばした。周囲の心配をよそに、問題は「ほとんどなかった」(古市社長)。

さらに、88年間にわたって根を張った大阪市福島区を離れ、海峽

1927年に母体の設立を見た同社の経営トップとして、創業家の継承で2004年から現職に就いた。

化粧品会社などへ販売する攪拌機等を製造するB to B事業者でありながら、古市氏のコンシューマーの目線に触れる企業認知度の維持・向上を重視してきた。

た経営理念を受け継ぎ、古市社長は脈々と続いてきた「発信」に磨きをかけている。

一例を挙げると、取引先からも好評という月次社内報の連載には、社内で取り組む養蜂の様子が綴られており、古市社長に理由と根拠を聞いたところ「ミツバチは攪拌をす

る希少な生き物」であり、同志なのだと思解な答えが返ってきた。

また、かつて東京支社の膝元だったJR浜松町の至近には現在も広大な広告看板がそびえ立ち、おびただしい人数に達する通勤客らの視覚へPRIMIXの6文字を刷り込んでいる。

B to B事業者の概念覆して

企業発信に注力

を越えた淡路島へ2015年に本社移転を果たしたことは歴代の社長が踏み込まない一大プロジェクトだった。

ここでも、新しい本社と工場は見学者を歓迎する造作で「発信」の概念を盛り込んだといい、2015年(8〜12月)は約2000名の見学者に対応した実績が早くもある。さきごろ、新本社が大手メディアの主筆するオフィスアワードで重賞を受けた経緯もあり、客足が伸びていった。(石)

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられております。
本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。